

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和6年度第2回相模原市地域福祉推進協議会		
事務局 (担当課)	健康福祉局地域包括ケア推進部地域包括ケア推進課 電話 042-769-9222 (直通)		
開催日時	令和7年3月24日(月)午後2時00分～3時20分		
出席者	委員	12人(別紙のとおり)	
	その他	2人(相模原市社会福祉協議会職員)	
	事務局	地域包括ケア推進部長、地域包括ケア推進課長、 高齢・障害者福祉課担当課長、津久井高齢・障害者相談課長、生活福祉課長ほか4名	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1)地域共生社会推進計画 成果指標について (2)来年度のスケジュールについて (3)計画見直しに係る基礎調査概要について (4)包括的支援体制の整備について 4 そ の 他 5 閉 会		

審 議 経 過

内容は次のとおり。

1 開 会

2 あいさつ

地域包括ケア推進部長よりあいさつを行った。

3 議 題

(1)地域共生社会推進計画 成果指標について

【事務局】地域共生社会推進計画 成果指標について資料1により説明。

(飯沼委員) 共生社会に取り組んでいるが、どのような社会をつくるか見えていないと思う。その中で成果指標として取り上げてもらったが、何を目的として指標を設定したか臆気である。今後具体的な共生社会の形が見えてくると、推進計画のアンケートの取り方も増えてくるはずである。そのように、このアンケートだけでなく、横断的に随時必要に応じてアンケートを取っていただきたい。これだけだと、まだ不十分だと感じる。後ほど重層的支援体制など出てくると思うが、その際に、様々なステージの方々の問題を取り上げていくと思う。そうなると、現在進めている推進計画の指標だけではアンケートを取る場所が十分ではないと感じる。

【事務局】後ほどの議題でも説明するが、計画策定に係るアンケートを実施していく中で、調査項目の内容については、市社会福祉協議会とも相談しながら検討していきたい、次回の協議会で具体的なアンケート項目をお示しした上で議論いただきたいと考えている。

(大貫委員) 資料3の3ページ目の成果指標の1つ目だが、いろんな方と関係を持つてはいるが、情報が入らず、連携したくてもできないケースも多々ある。そのため、アンケートも取り方については検討の必要があるのではないかと。

(佐藤委員) 資料3の3ページ目の成果指標の3つ目だが、高齢者や子どもの居場所づくりについては、地区の民生委員や地区社会福祉協議会でサロン運営など目に見える形で展開されているが、障がいのある方については、居場所はあると思うが目に見える形で増えていないと思う。この目標値について、各分野の内訳を出して細かい目標を立てるのもよいのではないかと。

【事務局】高齢者・障がい者それぞれの居場所があり、居場所の形も多様なものになっていると認識しているが、そのような状況を踏まえ、障がいのある方を受け入れられる居場所がどれくらいあるのか、そういった視点での確認は必要であると考えている。今後、アンケート実施に伴い、集計方法については検討していきたい。

(小野会長) こういったサロンは、地域の居場所ということで、地域の住民の人をすべて受け入れるといったサロンも数多くあるのだと思う。社会福祉協議会の職員の方も今回協議会に出席されており、サロンの一覧を作成していると思うが、高齢・障がいなど分かるようになっているか。

【社会福祉協議会】サロンについては一覧にしている。今のところ、高齢・障がいなど分かる形にはなっていないが、今回第10次の計画を市と連携して進めているが、その中で地域共生社会の実現という一番の目的として、障がいのある方が活躍できるよう特技・趣味など強みを生かして主体的に参加できるようなサロンづくりを目指している。計画を進めながら、障がいへの理解やサロンへの主体的な参加など活躍できる場づくりという形で進めていけたらと思っている。

(大貫委員) 外国籍の方の問題や子どもよりも親が分からず、放ってしまうこともある。学校も外国籍の方への日本語教育の負担が大きくなり、なかなか状況が良くなっていないということもあると思う。

(2) 来年度のスケジュールについて

(3) 計画見直しに係る基礎調査概要について

【事務局】来年度のスケジュールについて資料2により説明。

続けて、計画見直しに係る基礎調査概要について資料3により説明。

(笹野委員) 大貫委員からも話があったが、今回の調査対象が市内在住の18歳以上の男女(外国人を含む)となっているが、抽出の仕方は、説明資料のとおり住民基本台帳から外国人であるかないかは別としてランダムにピックアップすることなのか。

【事務局】ピックアップについては、外国人であるかないかは別としてランダムにピックアップする形を想定している。

(笹野委員) 外国人とそうでない方の抱えている課題は若干違うと思う。区別しないでランダムでの抽出となると、外国人を地域で抱えている例えば民生委員の方など、特別に配慮が必要であったりすることが多いと思う。また、最近では外国人市民が急増しており、今後も増えていく見込みである。そのため、こういった課題も無視できない。このアンケートで含めるというのはなかなか難しいと思うが、外国人から意見を聞くことや、国際交流ラウンジなどを通じて状況を伺うなど課題を把握するというのも良いのではないかと思う。

もう一点、市民へのアンケート調査について、経年比較を行うため概ね同じ内容となるということは承知しているが、市社会福祉協議会で作成している第10次活動計画に、市民の方とも話し合っただけで子どもの頃からの地域の縁づくりに重点を置いていこうとしている。子どもの頃からの地域参加はとても重要で、その辺りが希薄になってないかということが懸念されている。それが、大人になって活動に参加しているかに影響しているのではないかと推測している。そういった内容が分かるような設問を追加できないか。子どもの頃から地域活動に参加していたかどうかにより、大人になっての活動への参加に影響しているような数字が出るようであれば、市民の方が考える子どもの頃からの縁づくりが重要であることと結びつくと思う。そのような設問ができたというお願いになる。

また、22地区社会福祉協議会や民生委員の方からの意見はとても重要で、今、介護保険の計画でも地域づくり事業というものがあると思う。これも地域主体で進められており、地域福祉の担い手の人がほぼほぼ重複して事業等に取り組んでいると思う。この辺が、元々介護保険のスタート時に取り組んでいたものと新たな地域づくり事業との整合が上手くいっている地区と課題がある地区があるのではないかと思う。地域づくり事業への関わり方について課題があるのであれば分かるようにしていければよい。介護保険と地域福祉とで相乗効果が生まれればより良いと思っている。計画はそれぞれ別物だが、現場では、同じような方が同じように取り組んでいるため、そういった部分も整合が取れていければよいと思う。

(小野会長) 今の笹野委員からの子どもの頃からの地域活動参加は、経年比較はできないかもしれないが、是非新たに加えていただきたい。

(飯沼委員) 地区でも子どもたちのことを考えようと動いている。ただ居だけの居場所ではなく、集まってくるような居場所づくりに取り組んでいる。また、固定の居場所ではなく、夏季限定等短期の居場所というのも増えてきている。経年比較はできないため、新たに設問を増やすということには懸念があるかもしれないが、民生委員も地区社会福祉協議会も子ども関係の業務を行っているため、子どもに関する設問は増やしていただきたい。これからのためにも、検討してきたという経過を

残せればと思っている。

また、外国人に対する情報も増えてきており、地区としても課題として増えてきている。例えば、外国人の方が家を借りられないなどの相談も地区に入るようになった。誰のための共生社会ということも重要だが、一つ一つ課題に対して検討していき、次期計画策定に繋げていっていただければと思う。可能であれば、22地区社会福祉協議会については、子ども関係の設問を増やしていただければと思う。

(小野会長) 民生委員等への調査の中で、外国人への対応で苦勞している部分など、今後の参考にしていくため、設問として増やしていただければと思う。

(大貫委員) 外国人に関するものという設問が1問だけである。この部分はもう少し設問を増やしていただきたい。

(恒藤委員) 国際交流ラウンジで日本語のボランティアもやっているが、毎週のように外国人の方から日本語を勉強したいという要望があり、連日予約がいっぱいで断るような状態になっている。そのような状況の中で、一番問題になっているのが、お父さんが日本人、子どもはフィリピンにずっと在住している場合で、16・17歳で日本に来た時に日本語が全く分からず、どこの高校に行けばよいのか、高校への入学の方法も分からないといった相談がとても多いことである。アンケートもそうだが、そのような課題をどこから情報を吸い上げてくるかということも重要であり、そのような方法も検討いただければと思う。

【事務局】外国人についてだが、アンケートを行っていく中で、外国人を切り離して考えていくとサンプル数が少ないといったことも想定され、統計上フラットな形で見られない可能性もあるが、実際に課題として様々な話が挙がっているため、そういった課題を捉えられるようなアンケートまたは関係団体等からのヒアリング等により課題把握を行っていただければと考えている。また、子どもの頃からの縁づくりについては、この協議会の中でも地域の担い手の課題ということがよく意見でいただくが、将来の担い手確保という視点からも状況の把握は必要であると考えている。今後、その辺りも踏まえて検討していきたいと考えている。

(佐藤委員) 外国人の課題の把握という視点の中で、属性の中に、国籍を聞くのはいかがか。アンケートを行う上で、属性を聞くことが許容される範囲か分からないため、次回までに確認いただき、可能であれば、そういったものも聞き取ればよりよいデータになるのではないか。

【事務局】 調査時に組み込める内容か踏まえ検討していきたいと思う。

(中谷委員) 子どもの頃からの地域参加という点でいうと、高齢も福祉も人材不足が問題となっており、子供のころから福祉や地域に触れることが将来的に福祉の人材として活躍していくのではないかと以前から言われている。そのため、人材確保という面からも大事であり、アンケートに盛り込んでいただければと思う。

(4) 包括的支援体制の整備について

【事務局】 包括的支援体制の整備について資料4により説明。

(飯沼委員) まず初めに、大変素晴らしい実施計画を提出いただき、多岐に渡って検討されていると感じた。内容については、課題を持った方に対して、どのように課題解決していくか組織としての形を説明いただいたと認識している。私が所属している22地区社会福祉協議会は本当に困っている人を助けることは難しいが、要支援の段階でみんなを元気づけて要介護の人を減らそうというような福祉活動を地域でやっていこうと活動しており、こちらのほうが重要だと考えている。困った人を助けるのは制度として必要である。孤独・孤立にしないといったことや、できるだけ元気な人を増やすというのが民生委員・自治会や地区社会福祉協議会だと思っている。しかし、そういった団体が今非常に大変な状況に置かれている。人材もそうだが、予算もない。このような団体を行政が支援をしてほしい。地域の力は持っていると思うが、その地域の力を活かすという役割も行政としては必要だと思う。行政は縦割りのため、このように子どもの話題が出ても、子ども・若者未来局の話は出てこない。こういった場面で一緒に状況を把握いただくのがよいのではないかと考えている。以前、市長との懇談会の際に、車いすで通う小学生を地区社会福祉協議会の役員が学校へ送り届けるということを行ったこととお話し、これは福祉なのか、教育なのかということを質問したところ、行政側は誰も自分たちの範囲であるとは言わなかった。縦割りというのは、結論を出さずに終わることが多い。これでは、迅速な対応ができないため、地域からのニーズがあった際に、他部署とも迅速にやり取りや調整ができるようにしてほしい。会議でも縦割りではない方法も検討いただきたい。

【事務局】 今回進める重層的支援体制事業は、包括的支援体制の中であり、すべての関係課が協議会へ参加するのは難しいと考えるが、実施体制としては、断らない相談体制として関係課等との壁をなくすよう取り組んでいきたいと考えている。

(小野会長) 一番重要になってくるのが、他機関協働事業の支援会議・重層的支援会議といった各種会議である。複合的な課題を抱えた方や対応困難な課題を持っている方に対して、専門分野の方が協働してこのような世帯をどう支援していくか話し合っていく体制をきっちり作っていくことが大事である。この体制がしっかりすることで、分野横断的に専門職員が連携し、課題を解決していくことに繋がっていくと考えている。また、支援会議については、守秘義務があり、メンバーになった場合は罰則がある。そのため、個人情報についてしっかり話し合いができる体制になっており、この会議は現場の専門職員の求めに応じて開催することが大事である。会議開催の意味など開催をする前のハードルが高くなってしまうと、関わる専門職員のモチベーションにも影響してしまうため、そのような体制にならないように配慮していただきたい。

4 その他

(事務局) 次回の協議会は令和7年7月頃の開催を予定。改めて日程調整させていただきます。

5 閉会

以上

相模原市地域福祉推進協議会 委員名簿

	氏 名	所 属 等	備考	出欠席
1	飯沼 守	相模原市地区社会福祉協議会	副会長	出席
2	大貫 君夫	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
3	小野 敏明	特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 田園調布学園大学名誉教授	会長	出席
4	鍛冶 雄樹	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会		出席
5	笹野 章央	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会		出席
6	佐藤 勝己	公募市民		出席
7	渋谷 健太郎	公益社団法人 成年後見リーガル・サポート 神奈川県支部		出席
8	清水 淳一郎	相模原市私立保育園・認定こども園園長会		出席
9	清水 洋子	相模原市保護司会協議会		出席
10	恒藤 玲子	特定非営利活動法人相模原ボランティア協会		出席
11	中谷 正代	相模原市障害福祉事業所協会		出席
12	松崎 早希	公募市民		欠席
13	森下 美香	公益社団法人 神奈川県社会福祉士会		欠席
14	安永 佳代	神奈川県弁護士会		欠席
15	山口 信郎	相模原市自治会連合会		出席